

郡上の山をもっと知ろう ～郡上の「木育」～

子どもの頃から木を身近に使うことで、人と山や森、木との関わりを考える心を育てる取組みを「木育」と呼びます。市では、「清流の国ぎふ森林・環境税」と「森林環境譲与税」を活用し、市内小中学校、幼稚園・保育園と連携して実施する森林学習等を通じ、将来の山・地域・林業を支える人材を育成するために、木育を行っています。

木製ジャングルジム体験

市内の幼稚園・保育園（5園）、小学校（7校）において、道具も材料も全て郡上産のスギを使用した木製ジャングルジムづくりを体験しました。子どもたちは、木の特性とぬくもりに触れながら、大きな遊具を作り上げた達成感を感じることができました。



マイ下駄づくり

市内の小学校（3校）と中学校（6校）において、市産材のヒノキを使った下駄づくりに取り組みました。作業に先立ち、森林のもつ多面的機能や役割をはじめ、市の観光産業についても学びました。児童生徒は、下駄のデザイン・加工、鼻緒の取り付け等、初めての体験に真剣に取り組み、完成後には教室に下駄の音が鳴り響きました。



赤ちゃんに木製玩具をプレゼント

郡上市で生まれ育つ赤ちゃんに、早くから木に親しんでもらえるよう木製玩具を贈呈しています。木製玩具は、市内に複数ある製造業者によって手掛けられ、9種類の中から保護者に選んでいただくもので、9～10ヶ月児健診時にギフトカタログを配布しています。赤ちゃんにもお母さんにも木の良さを感じていただけたと思います。



学童机用天板を導入

市内の小学校（4校）に、郡上市産の間伐材で作られた学童机用天板を導入しました。「天板」を例に、木を伐る人、製材する人、組み立てる人、塗装する人といった多くの「人の手」を経て木製品が作られていることを学び、山や木そして人のつながりを考える機会となりました。



問 農林水産部林務課 67-2121